

東北地方太平洋沖地震による仙台空港 アクセス線の被災状況と復旧工事

Restoration Works for the Sendai Airport Transit Damaged by the To-hoku Region Pacific Coast Earthquake

▶キーワード：震災復旧，高架橋，ストッパー，ウォータージェット，フラットジャッキ

坂口秀一*
永野心治**
高橋 雅**

*土木計画部技術課 **北日本（支）名取（出）

概要

仙台空港アクセス線は、東日本大震災発生後の津波により、仙台空港の滑走路を下越するトンネルが水没するなどの被害を被った。当社施工区間を含む高架橋区間には、一見、重大な被害はないように見えたが、企業先からの要望により調査を実施したところ、沓座の破損などの列車走行に支障となる問題があることを発見した。当社の粘り強い調査により当社施工区間の被害全容を明らかにしたことが評価され、他社施工区間を含む約 3.7 km 範囲の被害状況の調査と補修工事を請け負い、平成 23 年 10 月 1 日に全線で再開に至った。本稿では、被害状況の調査結果、補修工事の内容、地震後の調査方法の提言などについて述べる。

成果

- 誠意ある調査が評価され、他社施工区間も含めた L=3698.1 m の被災状況の調査および補修工事を受注した。
- 大きな損傷を受けた箇所は高所かつ狭隘な状況だったため、特殊な施工方法を適用した。
- ストッパーの背面側で破碎機のノミが届かないような箇所では、ウォータージェット工法を用いてコンクリートを破碎した。
- 横ずれや脱落したゴム沓は、フラットジャッキを用いて再設置を行った。
- 破断した鋼棒ストッパー（φ 90 mm）はコア抜きにより撤去し、同一寸法の新品部材を再設置した。



写真-1 ウォータージェットによる研り状況



写真-2 フラットジャッキおよびゴム沓のセット